

社会

➔ 6年生 | 「自分たちの町にある歴史」

町歩きで歴史を学ぶ

1. 活用型の歴史授業って？

私は、活用型学習とは、子どもたちが授業で学んだこと（習得型学習）を、日常生活の中で活かしていくことだと考えています。

そのように考えたとき、歴史授業の活用型学習とは、どんな内容になるのでしょうか。私は、学習内容を教科書などの活字情報だけに頼らず、自分たちの住んでいる町の歴史とリンクさせることだと思います。題して、「町歩きで歴史を学ぶ」です。

2. 自分たちの町にも歴史はある！

たとえば、古墳時代の学習では、代表的な古墳として、大仙古墳（大阪府堺市）が取り上げられています。前方後円墳という名称とともに、「なぜこのような巨大な古墳をつくったのか」を学ぶのが、習得型の学習です。

私は、さらに、子どもたちに、こう問いました。「京都市内にも古墳はあったのかなあ？」と。

実は、あまり知られていないのですが、京都市内にも古墳は残っているのです。それも、住宅街のど真ん中に（「^{へびつか}蛇塚古墳」で検索するとヒットします）。この授業を機に、子どもたちは、自分たちの住む町と歴史をリンクさせながら、学び始めるようになりました。

3. 町歩きで、歴史を学ぶ

もちろん、京都という歴史の宝庫といえる地の利を活かしているからこそ可能なのですが、全国で学べる内容もあります。

その中のひとつが、全国に90以上ある『天満宮』です。平安時代の学習内容に、「894年菅原道真の進言により遣唐使が廃止される」というものがあ

ります。

私は、授業の中で、菅原道真が太宰府に左遷される前に詠んだ句を紹介しました。

「東風吹かば にほひおこせよ 梅の花

あるじなしとて 春な忘れそ」が、それです。

さらに、菅原道真の死後、崇りを恐れて天満宮が建てられたこと。梅が好きだった道真を偲んで神紋は梅であること。とても頭の良かった道真を祀ったことから、学問の神様として受験シーズンには多くの受験生が天満宮に集まることを話しました。

授業の数日後、何人かの子どもが興奮した様子で、下の写真を見せてくれました。



「この写真は私の家の近くの神社なんですけど、昨日何気なく前を通ったら、梅の神紋が目に入って…、それで、神社の名前を改めて見たら、水火天満宮だったんです。先生、これって！」

京都の天満宮といえば、北野天満宮が有名ですが、それだけではないのです。全国の天満宮は、「全国天満宮ガイド」(<http://tenjin3.com/>)で調べることができます。

このような情報を授業の中に少し入れることで、子どもたちの町を見る目が変わり、そのことが、探究学習への橋渡しにもなるのではないかと考えています。